



かがやけ憲法 キャラバンニュース

秋田県労連 10月20~21日

戦争する国づくり「ストップさせないとね！」

宣伝行動に激励の声

秋田県労連は10月20、21日に、街頭宣伝と未加盟労組・民主団体への共同の申し入れ、憲法キャラバン決起集会に取り組みました。今年は米価が1俵8500円と昨年比で3000円も下落しています。農家にとって死活問題というだけでなく、米どころ秋田県の経済全体が大きな打撃を受けているなかでの行動となりました。全労連から五十嵐常幹と国吉事務局員が参加しました。秋田県労連は独自県内行動と位置づけ、11月5日から自治体キャラバンにも取り組みます。



20日、薄曇りのなか昼の秋田駅前宣伝でキャラバン行動がスタート。県労連、建交労、高教組、県医労連などから9人が参加しました。アーケードの一角に、のぼり旗やプラカードを広げ、チラシ300枚を労働相談ティッシュとともに配布しました。

秋田県労連の越後屋事務局長と五十嵐常幹が宣伝カーから訴えました。越後屋事務局長は「安倍政権は農産物づくりに競争原理や儲けの論理を持ち込み、TPPや農協解体で日本の農業を壊そうとしている。命の源である食糧生産を衰退させてはこの地域、日本の将来は保障されない。農業の家族経営や、農協の役割を改めて広げ、本当の意味で日本の農業を守ろう」と呼びかけました。

通りがかりの初老の男性が「STOP! 戦争する国づくり」と書かれたチラシを手に取り「本当にストップさせないとね!」と激励の言葉をかけてくれるなど、反応はますますでした。キャラバンの宣伝と並ぶように年金者組合の皆さんは年金引き下げに反対する署名行動を行い、買い物客らが署名に応じていました。

未加盟労組を訪問、署名や行動で共同・協力を確認

農協解体「何としても止めたい」

午後は秋田大学生協労組、秋田農協労、県医労連、秋厚労を訪問し、取り組みの交流と署名などの協力要請を行いました。県労連の越後屋事務局長、田中、三浦両副議長、全労連2人が参加しました。

秋田大学生協労組では、「活動がなかなかできていない現状があり、他の組合の職場改善や要求を具体的に知りたい」との要望が出され、県労連や地域労連から各組合の取り組み学習会、レクなどの案内を送ることを約束しました。

秋田農協労仲村書記長は、「30年近くやってきてここまでの米価下落は初めて。米価半減で収穫の喜びも半減」と話し、『世界で一番企業が活動しやすい国』づくりの農業分野として農業・農協改革をやりようとしている。何としても止めたい。改革に反対する署名に協力してほしい」と述べました。ちょうど県労連に全労連から署名用紙が届いたことを伝え、署名とともに中央行動など可能なところで共同して取り組んでいくことを確認しました。憲法署名について仲村書記長は「私たちにも大いに関係する」と述べ、文書で改めて要請するようことになりました。憲法課題で様々な団体との統一行動づくりについて「できることは協力する」と応じてくださいました。



県医労連では「署名や春闘アンケートは職場においても集約するのが難しい」との苦勞も聞かれました。



越後屋事務局長が「一致する要求で運動をすすめ、そのためには役員同士で顔を合わせる機会を増やそう」と提起。これに対し「県労連への加盟は必要との認識は広がっている。県労連からの紹介で組織化できた例もあり、加盟問題について徐々に議論が始まっている」と、前向きな姿勢が示されました。

県医労連の最大単組の秋厚労では、憲法と労働法制の署名への協力を要請。「集团的自衛権に対しては様々な意見がある」としながら、「戦争になれば医療は真っ先にかかわる」と述べ、執行委員会で議論していただくことになりました。また自治体キャラバンに対する共同の申し入れには「地域あつての私たち。署名などの取り組みがどうかされるのか実感できる貴重な場」と述べ、地域段階での共同の可能性について言及しました。

夜は秋田市内でキャラバン決起集会を開催し、終了後は秋田名物のきりたんぼ鍋を囲み賑やかに交流しました。

過半数の議会が消費増税に反対

県商連の運動成果をいかし共闘さらに

21日は、秋田県商連、秋教組男鹿南秋支部との懇談を行いました。

県商連は消費税増税の問題を訴え、県内全自治体での意見書採択に取り組んでいます。9月議会では県内25自治体中13自治体で意見書が採択され、5自治体で継続審議となっています。必ず議会議長との懇談を行い、現在の米価や県内の経済状態では10%への引き上げが行われれば大きな打撃を受ける事を訴えているといいます。また、議員のなかには消費税そのものに賛成の意見を持っていたとしても「いま引き上げを決断するのは危険」と賛同したこともありました。憲法の取り組みでも、県労連を含め多くの団体と共闘して大きく訴えていくことを改めて確認する懇談となりました。

秋教組男鹿南秋支部との懇談も実現しました。全国学力テスト1位の秋田県の学校現場は1位をとり続けることが至上命題となっているといいます。小学校3年生ですら7時間目を設けテスト対策を行い、学年の変わり目となる春休みには学力テストの過去問をこなすことが宿題となる中で、「学級崩壊・不登校が増加していると感じている。教員の負担はすさまじい」と話しました。学力テストの公表に反対していることや、学校統廃合、小中一貫化に対する問題意識を伺いました。憲法署名については、地元の9条の会とのつながりなども活かして協力していきたいとこたえました。